

研修カリキュラム・シラバス

■科目① 職務の理解 (6 時間)

メインテーマ	・介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
キーワード	介護保険 キャリアパス
授業内容	多様なサービスの理解と 介護職の仕事内容や働く現場の理解。ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携。介護職の働く現場での仕事内容をできるだけわかりやすく説明する。研修制度や資格制度の説明から、興味を引き出す内容とする。
	■1-1 多様なサービスの理解(3 時間) ・介護保険サービス(居宅、施設) ・介護保険外サービス ■1-2 介護職の仕事内容や働く現場の理解(3 時間) ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事について(視聴覚教材の活用、現場職員の体験談等) ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチと社会資源との連携
授業形式	視聴覚教材の活用、グループワーク。
評価ポイント	介護の仕事についての自分のイメージを話すことができる。

■科目② 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)

メインテーマ	・利用者一人ひとりに対する生活状況の的確な把握の必要性を学ぶ。 ・他者の生活観及や生活の営み方から共感、相手の立場に立って考えるという姿勢を持つことの大切さを理解する。
キーワード	人権と尊厳 ICF QOL ノーマライゼーション 自立支援 虐待防止 介護予防
授業内容	利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職である介護者の視点から、自覚を持つことや、自立支援介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動について、事例をもとに説明する。 虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導と高齢者虐待に対する理解を促す。
	■2-1 人権と尊厳を支える介護(6 時間) ・人権と尊厳の保持 アドボカシー エンパワメントの視点 尊厳のある暮らしプライバシーの保護 ICF QOLの考え方 生活の質 ノーマライゼーションの考え方 虐待防止・身体拘束禁止 高齢者虐待防止法 個人情報保護法 成年後見制度 日常生活自立支援事業 ■2-2 自立に向けた介護(3 時間) ・自立支援 残存能力の活用 動機と欲求 個別性／個別ケア 介護予防の考え方
授業形式	視聴覚教材を用いて実感が伴うような授業とする。事例による理解。

評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の展開と目標を、尊厳の保持、QOL、自立支援、ノーマライゼーションといった考え方から捉えることができる。 ・基本的なポイントとして、虐待の定義や拘束、利用者の尊厳についてあげることができプライバシーに配慮した介護とは何かについて、理解できること。
--------	---

■科目③ 介護の基本 (6 時間)

メインテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、その人の生活を支えるという視点が大切であることを理解する。 ・人権擁護の視点を持つことと職業倫理の基本を理解をする。
キーワード	介護職の役割 連携 職業倫理 リスクマネジメント 介護職の安全
授業内容	<p>訪問介護や施設介護からその専門性を理解できるように地域の情報などから具体的に話す。事例などから専門職としての職業倫理を伝える。リスクマネジメントについてテキストの事例から学ぶ。介護職の抱えるストレスや健康管理について体操や手洗いなどの実習を行う。</p> <p>■3-1 介護職の役割と専門性と他職種との連携(2 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場の特徴の理解 訪問介護と施設介護サービス 地域包括ケア 介護の専門性 重度化防止・遅延化の視点、利用者主体 自立支援を支える援助 根拠のある介護 チームケア 介護に関わる職種 多職種の理解 介護支援専門員 サービス提供責任者 チームケア <p>■3-2 介護職の職業倫理(1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等 社会的責任 プライバシーの保護・尊重 <p>■3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント(2 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全の確保 リスクマネジメント 事故予防、安全対策 報告 情報の共有 感染対策 感染の知識 <p>■3-4 介護職の安全(1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の心身の健康管理 健康管理と介護の質への影響 ストレスマネジメント 腰痛の予防 手洗い・うがいの基本 感染症対策
授業形式	事例はグループワーク 腰痛予防、手洗い等は実習を取り入れる。
評価ポイント	介護職の専門性で緊急時やリスクに対応できる連携の理解。

科目④ 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)

メインテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種と協働して総合的、計画的に提供できる介護職として必要な制度を知る。 ・介護に関する社会保障の制度、施策、サービス利用の流れについての概要の理解。
キーワード	介護保険制度 医療との連携 リハビリテーション 障害者自立支援制度
授業内容	<p>■4-1 介護保険制度(4 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度について 目的、動向 ケアマネジメント 予防重視 地域包括支援センター 要介護認定 <p>■4-2 医療との連携とリハビリテーション(1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護と医療行為 訪問介護 看護と介護 <p>■4-3 障害者自立支援制度及びその他制度(4 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の概念 ICF 障害者自立支援制度の仕組みと理解 個人情報保護法

	成年後見制度 日常生活自立支援事業
授業形式	・自分自身の住んでいる地域の具体的な情報から身近な学びとさせる工夫を取り入れる。 ・医療行為についてはできるだけ視覚情報を与える。
評価ポイント	重要なキーワードについて確認テストなどを行い理解をはかる。

科目⑤ 介護におけるコミュニケーション技術 (6 時間)

メインテーマ	・一人一人のコミュニケーション能力の違いを理解する。 ・利用者、家族、多職種との円滑なコミュニケーションのとり方の基本を理解でき、実践につながるようにする。
キーワード	コミュニケーション 傾聴 需要 共感 報告 連絡 相談 記録
授業内容	介護の現場での言語的、非言語的コミュニケーションの技法について学ぶ。 利用者の状態や状況を把握したうえでの実際のコミュニケーションについて事例などから説明する。 チームでのコミュニケーションを記録や情報の共有といった視点から、その重要性について知ることができるようにする。 ■5-1 介護におけるコミュニケーション(4 時間) ・意義 目的 役割 言語的と非言語的 実際のコミュニケーション コミュニケーションの実際についてとその技術 失語症・構音障害・認知症に応じたコミュニケーション 共感 信頼関係 ■5-2 介護におけるチームのコミュニケーション(2 時間) ・情報の共有化 記録の意義・目的 個別援助計画書 ヒヤリハット 5W1H 報告 ケアカンファレンス
授業形式	ロールプレイなどを通して実践的に学べる授業とする。 考えさせる授業展開にする。
評価ポイント	発表などを通して、各自のコミュニケーションを振り返らせ、今後のテーマを検討できるようにする。

科目⑥ 老化の理解 (6 時間)

メインテーマ	・老化に伴うこころとからだの変化を、生理的な側面から理解する。 ・高齢者に多い疾病の理解をし、その日常生活への関わり方を学ぶ。
キーワード	老年期の発達 さまざまな疾病 生活上の留意点
授業内容	高齢者に多い心身の変や疾病の症状等の具体例を挙げ、その対応の留意点を説明する。介護する上での生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。 ■6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常(4 時間) ・老年期の発達 心身の変化 喪失体験 身体機能の変化 日常生活への影響 精神的機能の変化 ■6-2 高齢者と健康(2 時間) ・さまざま疾病 生活上の留意点 高齢者に多い病気と留意点 老年期うつ病 誤嚥性肺炎感染症
授業形式	・テキストにてICFの学習を取り入れ、理解を促す。 ・疾病については、視覚的に効果のあるその他の参考書などを使用し興味を引き出す授業とする。
評価ポイント	・加齢に伴うさまざま変化、およびその特徴を社会・身体・精神・知的能力の面から事例をあげて説明できる。

科目⑦ 認知症の理解 (6 時間)

メインテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を取り巻く現在の状況や医学的側面からの認知症の基礎について、健康管理について、日常生活を営む上でのこころとからだを認知症の理解とともに学ぶ。 ・利用者の行動と介護上の必要な支援と 家族への支援について知ること。
キーワード	認知症 パーソンセンタードケア 中核症状 周辺症状 見当識障害 レスパイトケア
授業内容	認知症ケアの理念から、その視点を理解できるようにする。原因疾患やその病態、ケアのポイントから健康管理へとつなぐ。利用者への具体的な対応で、本人の理解の重要性をつたえる。 支援のために求められることを介護者の対応から理解を促す。 ■7-1 認知症を取り巻く状況(1.5 時間) ・パーソンセンタードケアについて できることに着目した視点をもつ ■7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理(1.5 時間) ・認知症の定義・概念 原因疾患と病態 健康管理 薬と薬物療法 物忘れ、せん妄 ■7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活(1.5 時間) ・中核症状 周辺症状 BPSD 対応の仕方 相手の理解 進行に合わせたケア コミュニケーション ■7-4 家族への支援(1.5 時間) ・レスパイトケア 受容過程での援助 介護負担の理解
授業形式	ロールプレイ 事例による展開を取り入れる。
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性と影響する要因を列挙できる。 ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方や若年性認知症の特徴についても列挙できる。健康管理の重要性特に、廃用症候群予防について概説できる。

科目⑧ 障害の理解 (3 時間)

メインテーマ	傷害の基礎的理解とその医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴を知り関わるうえでの支援等の基礎的知識家族の心理とかかわり支援の理解。
キーワード	ノーマライゼーション QOL ICF 障害の概念
授業内容	■8-1 障害の基礎的理解(1 時間) ・ICFと障害の概念 ICFの考え方について 障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーション ■8-2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 ・身体障害 知的障害 精神障害 その他の心身の機能障害(1 時間) ■8-3 家族の心理、かかわり支援の理解(1 時間) ・家族介護の負担について 障害の理解と受容の支援
授業形式	視聴覚教材の使用をとりいれて理解を促す。
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFの理解と障害の概念について列挙できること。 ・障害のプロセスの受容ができたかなど。

科目⑨ こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)

メインテーマ	介護の実践についての基礎的知識を理解させ、具体的にからだところについて学ぶ。 利用者にとっての生活のとらえ方を、様々な介護技術からの体験を通して理解させる。
キーワード	自立支援 生きがい ADL 主体性の尊重 福祉用具 ボディメカニクス 生活不活発病 終末期ケア
授業内容	<p>■9-1 介護の基本的な考え方(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFの視点からの生活支援について <p>■9-2 介護に関するところのしくみの基本的理解(5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習、記憶、感情、意欲についての基礎知識を学ぶ ・からだの状態とところの状態との関係性とその影響について <p>■9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的理解(5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の名称、骨・関節・筋、等についての基礎知識を学ぶ ボディメカニクスの活用について さまざまなからだの神経について 自律神経 利用者の様子の違いについての視点を持つことなどを学ぶ <p>■9-4 生活と家事(6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と家事の理解 家事援助と生活支援 自立支援 生活習慣や価値観の違いによる対応のしかたについて <p>■9-5 快適な居住環境整備と介護(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護と居住環境の関係についての基礎知識 高齢者・障害者への支援のありかたを環境整備の視点から学ぶ 福祉用具とその留意点 家庭内事故 住宅改修 バリアフリー <p>■9-6 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容支援の技術についてとその基礎知識 身体状況と衣服の選択と着脱 整容行動・行為 洗面についてその意義、効果 事例を通した演習を取り入れる 技術の評価を行う <p>■9-7 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(12時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動と移乗についての基礎知識 移動／移乗のためのさまざまな用具やその活用のしかたについて利用者との安全・安楽の視点からの支援方法 残存機能、その活用と自立支援 ボディメカニクスと応用方法 具体的な移乗介助方法(車いす、ベッド、杖、歩行器などへの移乗) 褥瘡の予防事例を通した演習を取り入れる 技術の評価を行う <p>■9-8 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事についての基礎知識 食事関連用具と活用方法 食事のもつ意味 介護者の意識 栄養について脱水の危険性 咀嚼・嚥下と姿勢について 誤嚥性肺炎 口腔ケア 環境整備、福祉用具の活用事例を通した演習を取り入れる 技術の評価を行う <p>■9-9 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな入浴用具と整容のための用具の活用方法 羞恥心への配慮 体調確認 清拭とその他の準備や用具 その他の清潔ケア 部分浴 陰部洗浄 事例を通した演習を取り入れる 技術の評価を行う <p>■9-10 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の基礎知識を学ぶ 用具や活用方法 排泄にむけての身体面、心理面の影響 プライドと羞恥心ケアと尊厳 具体的なトイレ介助 便秘の予防 事例を通した演習 技術の評価を行う <p>■9-11 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護(4.5時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠についての基礎知識 さまざまな睡眠のありかたや環境との関係 安眠の工夫 安楽な姿勢と褥瘡予防 事例を通した演習を取り入れる 技術の評価を行う

	<p>■9-12 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護(1.5 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアとは何か <死>に向き合うことやそれまでの過程を考える 臨終の際の介護のありかたと関わる人との情報の共有の必要性 <p>■9-13 介護過程の基礎的理解(2 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義・目的・展開方法 チームアプローチ <p>■9-14 総合生活支援技術演習(10 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例からの学び 生活場面を想定し支援の提供を利用者の心身の状況に合わせて行えるかなど 実際の介護のありかたを学び、演習として実施、確認する
授業形式	講義と演習 場面設定をとりいれできるだけ具体性を持たせた実技にする
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントをあげられる。 人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけたり体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを説明できる。 ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ・整容の意義について解説でき残存昨日を生かした部分的な介護を行うことができる。 ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな基本的使用方法を理解し指示に基づいて介助を行うことができる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事の支援に必要な事柄が理解できる。 入浴と清潔の理解及び排泄、睡眠などの理解と介助方法が行える。ターミナルケアと連携が理解できる。

■科目⑩ 振り返り (4 時間)

メインテーマ	利用者本位のサービスを提供するための、チームアプローチの重要性と役割、責務等について。的確な記録・記述の大切さの理解。
キーワード	介護 介護過程 OFF-JT OJT
授業内容	<p>■10-1 振り返り(2 時間)</p> <p>在宅、施設のいずれの場合でも、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識で、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。介護職の仕事内容や働く現場の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫活用をする。</p> <p>■10-2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修(2 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場見学から体験的な理解を促す。

	・在宅や施設等における利用者の生活を知ること、利用者・家族についての理解を促す。
授業形式	介護の現場見学、またはビデオ等により現場により近い学びの工夫をする。
評価ポイント	就業への備えと研修修了後における継続的な研修が行える。